

Power Cache Office

共有フォルダのOfficeファイルが、重くてなかなか開けなかった経験はありませんか？

やっとの思いで開いたファイルが、使用中で更新できなかったことは？

検索に時間がかかり、探しているファイルが見つからなかったことは？

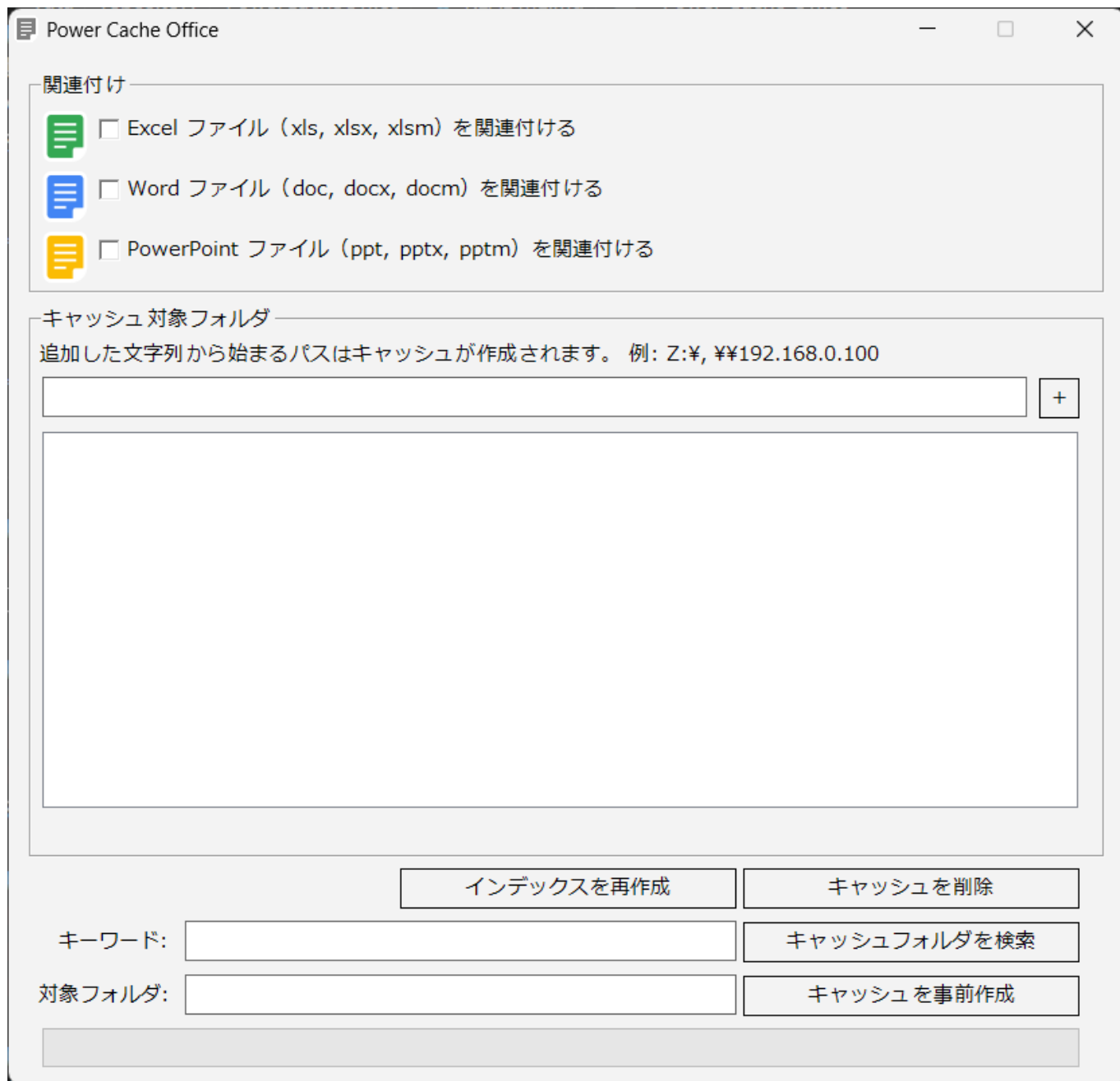
「Power Cache Office」はこれらの問題を解決します。

- リモートのOfficeファイルを開くと、自動でローカルにコピーを作成します。
 - ローカルPCにあるファイルとして、軽快に操作することができます。
 - 検索も高速に実行できます。
 - リモートのファイルをロックしないため、他の人との共同作業を邪魔しません。
- ローカルのコピーを更新すると、自動でリモートへアップロードします。
 - リモートのタイムスタンプが変わっていた場合、開いて内容を確認してからアップロードすることもできます。

画面構成

以下が「Power Cache Office」の画面構成です。

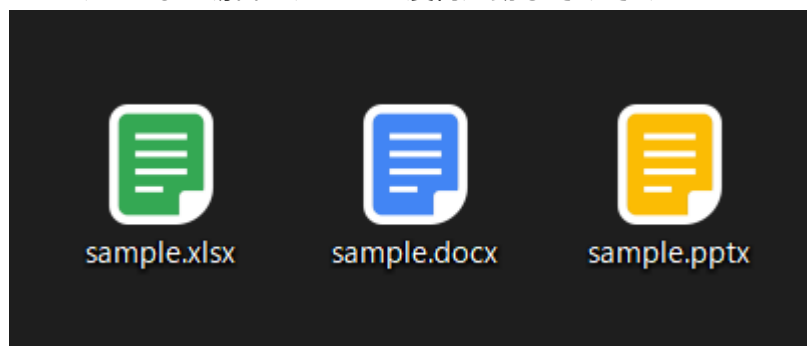
各機能の使い方を説明していきます。



関連付け

チェックを入れた拡張子が「Power Cache Office」で開くように関連付けを行います。
特に理由がなければ、すべてチェックを入れてください。

Officeファイルを開くアプリが「Power Cache Office」のアイコンになっていれば完了です。
うまくいかない場合は、PCを一度再起動してみてください。



キャッシュ対象フォルダ

キャッシュ作成する（ローカルPCにコピーを作成する）フォルダを指定します。
共有フォルダや、外付けハードディスクのパスを指定してください。

テキストボックスにパスを入力し「+」ボタンを押すと追加されます。
追加したパスを削除する場合、選択して「Delete」キーを押してください。

インデックスを再作成

ローカルのコピーとリモートの関係を再作成します。
リモートのOfficeファイルが、うまく開けなくなった場合に実施してください。

キャッシュを削除

ローカルのコピーをすべて削除します。
インデックスを再作成しても、リモートのOfficeファイルがうまく開けない場合や、PCの容量が不足した場合に実施してください。

キャッシュフォルダを検索

キーワードを入力してボタンを押すと、ローカルのコピーを対象に検索を実施します。

キャッシュを事前作成

対象フォルダを入力してボタンを押すと、フォルダにあるOfficeファイルをローカルにコピーします。
以下の2点に注意して実施してください。

- 処理に時間がかかる可能性があります。
- 大量のファイルをキャッシュすると、PCの容量が不足する可能性があります。

インストール

インストーラーはありません。
[アプリ本体](#)を適当な場所に配置して実行します。

セットアップ

アプリを実行するとタスクトレイに常駐します。
タスクトレイのアイコンをクリックして画面を開き、各種設定を実施してください。
設定後は最小化すると、タスクトレイに常駐して動作し続けます。

アンインストール

1. 「関連付け」のチェックをすべて外します。
2. アプリを終了します。
3. アプリをフォルダごと削除します。

ライセンス

本アプリは、[MIT ライセンス](#)で提供されます。

連絡先

本アプリに関するご連絡は、[こちら](#)までお願いいたします。